

令和6年度 第3回

平戸市総合戦略推進委員会

会 議 録

と き：令和6年10月30日（水）13：30～16：00

ところ：平戸文化センター会議室A

開催日時	令和6年10月30日(水) 13:30~16:00
開催場所	平戸文化センター会議室A
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木明子、井芹裕貴、小楠長己、木田真弓、坂元洋一郎、田口増巳、辻俊郎、福田章、松崎利恵子、松田隆也、松山恵美、松山芳弘 (12名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	柿野朋之、原田和寛、山中兵恵(3名)
事務局 (財務部企画課)	梶田財務部長、藤山企画課長、塚本参事兼政策企画班長、作江主任主事、平山会計年度任用職員
事業担当課	こども未来課、教育総務課、学校教育課、企画課、文化交流課
次第	
1 開会	
2 会長 あいさつ	坂元会長
3 議題 (1) 平戸市総合戦略に係る令和5年度事業の実施状況について 委員	<p>【基本目標3 子育て支援～ひとをそだてるプロジェクト～】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>全体的に今後の方針についてGの継続ではなく、積極的に行っていくという意味でAの拡大にしていくなど、メリハリをつけた方がよいのではないか。</p> <p>47ページの合計特殊出生率について令和5年度が落ち込んでいる理由は何か。</p> <p>50ページの事業実施状況について、平戸地区で保護者873人、子ども1,061人となっているが平戸地区にどれだけの対象年齢の子どもがいるのか。利用人数の延べ数ではなく利用率を出すべきではないか。</p> <p>51ページの超音波検査料であるが、10,000円で足りるのか。もう少し増やす必要があるのではないか。また、助成件数について令和5年</p>

	<p>度は 143 件と一番少ないが、その理由は何か。</p> <p>53 ページの産前産後サポート事業の利用者数は多いが、産後ケアの利用者が少ない理由は何かあるのか。</p>
事務局	<p>合計特殊出生率については、20～49 歳の女性の人数が 3,118 人で、母数である女性の数が減っている。特別な要因はなく、計算上出た数字である。</p>
委員	<p>特別な理由がなく、2 を割り込んでくる可能性があるのか。</p>
事務局	<p>下がった理由は生まれた数が減ったことである。人口動態から考えると分母も分子も減っている。県内でも合計特殊出生率が 1 位 2 位の数字だったのは、分母が減ったからである。令和 3 年度はコロナの影響もあったかと思うが、令和 4 年度には 2.0 に戻っている。合計特殊出生率が高いから良いのではなく、若い女性が減ったので出生率が高いということになる。</p>
委員	<p>分子よりも分母の減りが少なかった、若い女性の流出が想定よりも少なかったということか。</p>
事務局	<p>そういうことになる。</p>
こども未来課	<p>ご指摘いただいた子育て支援拠点の利用人数について、今後資料に平戸地区の子どもの数も加筆していく。</p>
委員	<p>利用率は感覚的にどれくらいか。</p>
こども未来課	<p>割合をお示しできる数字が手元にないが、平戸地区について 1 日当たり保護者十数名程度が子どもを連れてきている。</p> <p>51 ページの超音波検査料については、そもそも健康保険の対象外であり、全額自己負担である。1 回あたりの検査料は 3,000 円～5,000 円</p>

	<p>程度である。そのうちの一部助成というかたちで1回あたり1,000円を10回分助成している。妊婦健康診査の助成は全部で14回の補助で、その内4回分は別の補助があるので、残りの10回分を超音波検査料10,000円として助成している。</p> <p>助成件数について年々減少しているとのこと指摘をいただいたが、ほぼ出生数ということで数字を見ていただきたい。妊娠届け出の時に申請をしてもらうもので、離島以外地区の方には25,000円、離島地域の方には50,000円の助成としている。令和5年度の助成件数は143件であるが、このほかに申請後すぐに転出した方もいるので、出生数と完全に一致するものではない。</p> <p>53 ページ産後ケア事業は、生後1歳未満の乳児と母親を対象に、助産師による家庭訪問や出産した病院を指定産院としてデイサービスやショートステイサービスを利用した件数を延べ件数で示している。本人の希望があれば実績として上がるので、結論として希望が少なかったということになる。</p> <p>委員 産後ケア事業について内容の理解はしているが、良い事業なので利用が多くあるのではと思ったので、件数が少ない事を疑問に感じて質問した。</p> <p>こども未来課 デイサービスやショートステイに関しては、出産した産婦人科において授乳などの指導を受けるほか、心のケアを含めてゆっくりしてもらうというものである。ショートステイに関しては、1泊または2泊していただく。市内に産婦人科がないので、家のことが心配でなかなか利用しないという状況ではないかと思う。さらに兄弟児がいる場合は、兄弟児の預かりは対象外なので第二子以降の出産の場合は利用が難しいと思われる。また、生後間もない子どもを連れて市外の産婦人科まで出向くことも負担になっているのではないかと思う。訪問ケアなどは積極的に利用していただくようおすすめしている。</p> <p>委員 今後の方針がFの改善・見直しとなっているが、積極的に利用して</p>
--	--

	<p>もらうという意味でケアを手厚くしてよいのではと思うので、Aの拡大にするべきではないか。</p>
委員	<p>全体的に言えることであるが、予算が増えれば積極的にやっていくということで拡大であると考え。継続だと消極的に感じる。予算と事業内容によっては、拡大になる部分がたくさんあると思う。</p>
委員	<p>はじめにも申し上げたが、積極的にやっていくということで拡大がよいのでは。</p>
委員	<p>産後ケア事業について、助産師の訪問やデイサービスなどとのことであるが、母親が違うことを求めているのではないか。デイサービスなど出向いていくものではなく、洗濯などの日々の生活に対してのヘルパー事業を考えていただきたいと思う。</p>
こども未来課	<p>本人が出向くものではなく、生活環境の支援も考えており、昨年度から家事支援に取り組んでいる。まだ数は多くないが、実績を上げている。今後、家事支援のヘルパー派遣事業も充実させていきたいと考えている。</p>
委員	<p>今回は令和5年度の事業の振り返りなので、今後指標に入れていただければ良いと思う。</p>
委員	<p>53 ページの産後ケアについて、事業の目標及び内容の部分で母親が抱える不安や負担の軽減を図るとか、事業の改善の部分で母親にニーズ調査を行うとあるが、子育ては夫婦でするものなので、母親という言葉を外してもよいのではないか。</p> <p>50 ページの地域子育て支援拠点事業について、父親がどれくらい利用しているのか。また、父親が利用しやすい環境なのか。</p>
こども未来課	<p>53 ページの母親に限定した文言について、いただいたご意見を踏ま</p>

	<p>え今後検討していく。</p> <p>50 ページの利用者について、集計において男女の区別で保護者を分けていないが、実際に父親の利用も目にしている。</p>
委員	<p>父親の利用に関して、数値的なことよりも父親にこのようなことがあるという周知をしていってほしい。</p>
委員	<p>子育てをしていく上であったらいいなと思ったことで、子どもの予防接種を月に一回など夜間の実施の検討をしていただけないか。</p>
こども未来課	<p>予防接種については、3月の一週目を推進週間と定めて市報などで周知している。積極的に予防接種を受けていただきたいので、以前、医療機関に休日に対応をお願いしたことがあったが、利用者がわずか数人と少なく、現在では行っていない。夜間については、医療機関のご理解が必要になるので、検討していく。</p>
委員	<p>50 ページの事業の内容について、子育て支援拠点の開設が週 5 日となっているが実働日数を記載した方がよい。平戸地区と田平地区の利用人数の差が大きく疑問に思う。実働日数があればわかりやすいのではないか。</p>
こども未来課	<p>平戸地区は愛の園保育所内に週 5 日常時開設していて、田平地区も曜日は違うが週 5 日常時開設をしているので、日数については全く同じである。利用者数の差であるが、平戸地区は愛の園保育所に開設しているが、田平地区は市内どこからの参加も可能ということで案内しているため市内全域からの利用者があり、人数が多いと把握している。</p>
委員	<p>56 ページ ICT 教育環境整備事業で、ICT を活用して指導できる先生が増えているのは良い事だと思うが、ICT を使って子どもの習熟度に応じた指導をどのように行っていく構想なのか。学習状況が全国平均以下</p>

<p>学校教育課</p>	<p>であるという現実があり、先生が使いこなせることがゴールではない。使いこなせるようになった先がどうなっていくかというイメージをお示しいただきたい。</p> <p>現在、タブレットが1人1台貸与されている状況であり、コロナの影響で当初の予定より数年早く理想的なかたちが整っている。ドリルパークというソフトを使っており、個別の内容が習熟できる体制が整いつつある。課題演習の時間にドリルパークを使って習熟度に応じた問題演習ができています。さらにソフトの中身について、今後はもっと内容の濃いレベルアップしたものを検討していきたいと考えています。習熟度別に完全にクラスを分けるというのは、義務教育の中で不可能に近い。支援員の導入などで二人体制の授業が少しずつできるようになってきたので、クラスの中で習熟度の違いに応じた教員の指導方法のあり方などを今後の方針として掲げていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>事業実施による成果の部分で、授業に ICT を活用して指導できる教職員の割合となっているが、そこが最終目標ではなく生徒の習熟度向上が指標となってくるのではないかと。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>そのとおりである。この指標に関しては、見直すべく動いている。まだ、令和元・2年当時は、教員が使いこなせていない状況で、急速にタブレットの普及が行われた。当時は教員についての課題の方が大きかったため、この指標となっている。今後は子どもの学力の問題を何とかしないと行けない。厳しい状況であるので、ICTを手段として学力を伸ばすことを最終目標として指標も見直しをしていかなければならない。</p>
<p>事務局</p>	<p>指標というのは、基本目標が目指すべきところとして数値目標や KPI の目標値として掲げている。一方、各事業の数値的成果というのは、それぞれ個別の事業の進捗状況を見るための数字である。複数の事業の数値目標や KPI では個別事業の達成具合がわからないとのことで、</p>

	<p>各事業の数値的成果を示しているという経緯がある。各事業の数値的成果は、目標として掲げているわけではなく進捗状況であるということをご理解いただきたい。</p>
<p>(1) 平戸市総合戦略に係る令和5年度事業の実施状況について</p> <p>委員</p> <p>企画課</p> <p>委員</p>	<p>【基本目標4 定住・移住の促進～まちをつくるプロジェクト～】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>数値目標に市外からの移住世帯数とあるが、これは定住してもらえるものなのか、一時的な移住なのか、その内訳はどのようになっているのか。</p> <p>コミュニティ推進事業について、令和6年度予算が1,400万円ほど増額になっているが、今後の方針として継続となっている。その増額の内訳はどのようになっているか。</p> <p>UIターンの人数について、Uターンが27世帯51人、Iターンが28世帯52人となっている。この人数は補助金を活用された数であるが、5年以内に市外に転出された場合は補助金を返還してもらっている。昨年度、補助金を受けた中で返還になった方が5件程度あった。補助金申請の時に聞き取りは行い、もちろん住み続けるということで補助金を出す、実際として補助金返還は発生してきている。</p> <p>コミュニティ推進事業の予算増額の内容であるが、集落支援員を16名雇用している分の給与改定に伴う人件費増が主な要因となっている。その他事務費などが上がっている状況である。各まちづくり運営協議会に対する交付金の額、1億2,600万円に変更はない。</p> <p>59ページの進捗状況の分析の部分に転出超過が依然として続いているとのことだが、これは危機的状況である。積極的にやっていく政策が必要なのではないか。</p> <p>62ページのUIターン者の人数が令和4年度112人から5年度103</p>

	<p>人と減少している。移住定住支援をもっと積極的に行っていく必要があるのではないか。転出超過という危機的状況を回避する必要があると思うので、今後の方針を継続ではなく、拡大にするべきではないか。</p> <p>67 ページの平戸学推進事業についても、平戸の良いところを広めていかなければならないということで、こちらも積極的にやるべきだと思う。継続ではなく拡大すべきではないか。</p> <p>今後の方針のG継続やA拡大について、例えば移住定住事業においては、昨年3月末に策定した総合計画の後期計画の中でも積極的に進めていくようになっており、それによって事業を展開している。今後の方針の継続とは、現状のままという意味ではなく、拡大とするのは補助メニューの拡大であるとか、補助対象者の拡大である場合に拡大のA、現状の制度の中で補助メニューの追加などがなければGにするというような整理をしている。決して移住定住事業を現状のままにしようということではなく、今後積極的に行っていく姿勢に変わりはない。</p> <p>また、移住定住に関しては、以前、委員からのご提案があった先進自治体視察を11月15日～16日で行う。委員のみなさまにご案内したが、平日ということで出席が叶わず、事務局のみで視察を行う。先進地の取り組みを参考にして、今後も積極的に、より移住定住に繋がるような取り組みを行っていく。</p>
企画課	
委員	<p>継続をして力を入れていくということで、行政としてはこれが精いっぱいなのだろうと理解する。予算が別途付く場合はAの拡大で、積極的に行っていくのならば新たなメニューを作っていくべきである。</p>
事務局	<p>このシートは市議会に提出する書類のひとつでもある。予算的な裏付けも必要になってくるので、表現が難しい部分があることをご理解いただきたい。</p>
委員	<p>市役所の限界ということで理解している。</p>

委員	<p>平戸学推進事業の中で平戸学講座が4回とのことだが、行けない人もいるだろうし、後から学校の教材として使うこともできると思う。後からどこかで見られないものか。</p>
文化交流課	<p>講座の主な内容が、現場で史跡の詳しい説明をするもので、それを動画に撮って後から見られるようには今のところやっていない。参加したくても日程の都合で来られない方もいらっしゃるので、今後検討していきたい。</p>
事務局	<p>更新がなかなかできていないが、平戸学の YouTube チャンネルがある。</p>
委員	<p>YouTube でも見られると思うが、講座ではもっと詳しい説明があるのでは。</p>
文化交流課	<p>講座は1時間半ほどかけて詳しく説明している。</p>
委員	<p>平戸検定の復活を文化交流課で考えていないのか。過去の検定に受かった人たちの活かし方や、これからまた受けたいという人、さらにレベルアップを目指したい人もいる。平戸学推進事業で平戸検定の復活をやっていただけないか。</p>
文化交流課	<p>平戸検定は NPO 法人平戸観光ウェルカムガイドが主催していた。その時のガイドブックが個人の著作となっており、そのまま市が使えないので、新たなものを作らなければならない。今のところ検定の復活は予定していないが、平戸学推進事業では郷土愛を育む学習機会を提供することとしているので、今後、何かできないか検討していく。</p>
委員	<p>ぜひ、検討していただきたい。 観光課の業務になるかと思うが、まちかど案内所の看板を掲げてい</p>

文化交流課	<p>る商店への情報提供を再検証してほしい。</p> <p>文化交流課でもイベントのチラシは置かせてもらっている。観光課と連携してやっていく。</p>
委員	<p>平戸インターチェンジが令和7年度に開通し、福岡からの観光客が増える。まちなかを散策する際に、まちかど案内所に立ち寄り、情報を得ようとする人も増える。対応できるような情報提供が必要である。平戸の印象も良くなるので、まちかど案内所の充実をお願いしたい。</p>
事務局	<p>おもてなしの向上は総合計画の後期計画にも掲げており、今のご意見を観光課へ繋いでいく。</p>
委員	<p>今日平戸瀬戸市場のレストランで昼食を食べたが、観光マップを置いていなかった。これでは、福岡から来た人が瀬戸市場に寄った後どこに行けばいいかわからない状況である。個々の点での施策はやっているのであろうが、それが線や面となっていない。マップを作り、福岡にもばら撒くことが必要となってくるのではないか。</p> <p>67 ページに平戸学ホームページに新たなコンテンツを追加したとあるが、外部へ委託したのか。</p> <p>68 ページの国民文化祭開催事業の中でコンサートの入場者数が令和4年度464名に対し、令和5年度が226名と半減しているが、その理由は何かあるのか。</p>
文化交流課	<p>平戸学ホームページへのコンテンツ追加に関しては、技術的に我々ではできない部分であるので、業者に委託して行った。</p> <p>コンサートの入場者数に関しては、会場が違うという点で差が生じている。令和4年度は平戸文化センターで開催し、令和5年度は平戸の歴史的な資源を活用することで上神崎教会とオランダ商館で開催し、キャパシティ数の問題でこのような大きな差となっている。</p>

委員	申し込みはキャパシティ以上の数が来ていて、会場の問題で人数が限られてしまったということか。
文化交流課	会場のキャパシティ数の入場券を作っているのだから、それ以上にはならない。
委員	67 ページ、平戸学のチラシを 20,000 部作成し、公共施設及び観光施設、各地区まちづくり運営協議会へ配布したとのことだが、具体的にどのような内容のものか。
文化交流課	平戸地域資源データベースというサイトで、歴史や文化の情報を集めたデータベースであるが、観光客にも利用していただけるものである。他に 200 本の動画をアップしている平戸学の YouTube と平戸学の公式インスタグラムを紹介したチラシを 20,000 部制作して、まちかど案内所も含めて各施設に配布した。観光客の方に検索していただくのはもちろんだが、郷土愛を育むことを目的としている平戸学であるので、地域の方にも利用していただくためにもチラシを作成した。特にまちづくり運営協議会は史跡めぐりのイベントも行っており、その際に利用できるようにしている。
委員	配布は市内だけか。
文化交流課	今のところ市内だけである。
委員	できれば、福岡にも配布するべきではないか。
文化交流課	もちろん、置いていただけたら協力依頼はできる。
委員	有楽町のサテライトにもぜひ置いていただいて、対外的にもアピールする必要がある。平戸の中での周知も必要であるが、外貨を稼ぐこ

	とも必要であるので、外に向けてもPRしていく必要がある。
委員	平戸学講座は市外の方の参加も可能なのか。
文化交流課	参加はできるが、市外に対して周知ができていないので、市外の方の参加の実績は無い。しかし、お庭の公開を行ったときは市外からたくさん来られた実績はある。
委員	平戸学のサイトを見ているが、市街地と春日集落の古地図を公開してある。全島観光を目指しているのであれば次のステップとして中南部のデータベースも必要なのでは。中南部の展開は考えていないのか。
文化交流課	松浦史料博物館の古地図を活用させていただいている。現在のメインは、市街地と世界遺産の春日集落である。中南部地区に史跡がどれだけあるのか、また古地図があるのか確認する必要がある。今後、中南部地区も検討していく。
委員	中南部に古地図はないと思う。古地図にこだわる必要は無いのではないか。
文化交流課	古地図と今の地図を比べるということで公開している。
委員	先ほども申し上げたが、観光課と情報共有しておかないと統一感がない。地元の人が学ぶ平戸学と情報発信とで住み分けをしながら連携してやっていただきたい。
委員	横の繋がりができていないのが現状ではないか。難しいと思うが、ぜひやっていただきたい。プロジェクトという形で横断的な繋がりが必要となってくるのではないか。そういった組織的なことも総合戦略に盛り込んでいくのも良いのではないかと思う。予算的に難しい面も

	<p>あると思うが、総合戦略推進会議ではこのような意見も出していく必要があると思う。</p>
委員	<p>私も南部出身であり、委員の意見に賛成で、中南部地区にまで観光を掘り下げてほしい。志々伎山にまつわる伝説があり、史実は少ないかと思うが掘り下げてアピールしてほしい。平戸市の中でも古い歴史があり、十分に誇れるものだと思う。例えばアニメのキャラクターを使ってアピールするなどやり方もあるのではないか。</p>
委員	<p>高校生は探求活動を必ずやっている。その中で、いろんなテーマを考えていくが、地域の課題を解決することをテーマとする生徒もいる。猶興館高校は市役所にも近い位置にあるので、市役所と一緒にマップ作りをやるなど、高校生も地域に愛着を持てるし、行政も高校生の若い感性を取り入れることで新しい事もできるのではないか。どんどん高校生を使ってほしいと思う。まずは、中学校で郷土愛を育むそのような取り組みをやることによって、将来的に流出も防げるのではないか。</p>
委員	<p>高校生の取り組んでいるアクティブラーニングでぜひ一緒にやってほしい。その場合、所管は学校教育課になるのか。</p>
事務局	<p>学校教育課は中学校までである。高校との連携の窓口は企画課になる。</p>
委員	<p>高校生にも協力依頼してぜひやってもらいたい。</p>
委員	<p>学校にも担当者がいるので、ぜひ行政と連携してやっていきたい。</p>
企画課	<p>平戸高校、猶興館高校ともに地域の課題探求など市の方へ講師依頼をいただいている。その際、企画課が一旦受けて適宜担当課へ繋いでおり、引き続きやっていきたい。</p>

委員	<p>長崎県立大学も平戸市とは包括連携協定を結んでいるので、地域の課題解決などあればご協力できる。佐世保市とはゼミ単位で連携している。平戸市でもニーズがあれば、お繋ぎする。</p>
委員	<p>県の事業であるが、まちづくり景観遺産が平戸市にはいくつかある。鮎川邸など県の資産に選ばれているということを知らない市民も多い。それを平戸学ということであれば地域の人達に周知する必要がある。周知しながら資産を守っていこうという意識を植え付ける必要もある。せっかく県の登録を受けているので、事業としてやっていていただきたい。</p>
委員	<p>最後に一言。行政は積極的にできない部分というものがあるが、メリハリをつけないといけない。外から見ると継続では何もやっていない印象になる。やらないといけないことはやるべきである。例えば人口減少については危機的状況であるので、積極的に拡大していかなければならない。</p>
委員	<p>今後の方針「A. 拡大」を増やさなければならない。</p>
委員	<p>予算が付けば「A. 拡大」になるのなら、予算について考え意見する場がこの推進委員会になる。</p> <p>以上で本日の議事を終了する。</p>
4 開会	<p>(梶田財務部長あいさつ)</p>